

| | | | | |
|--------|-----|-------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 総合計画体系 | 政策名 | Ⅲ 地域で支えあうくらしづくり 《保健・医療・福祉》 | 施策主管課 | 健康福祉総務課 |
| | | | 施策統括課長 | 梅木 郁夫 |
| | 施策名 | 21 地域福祉の充実 | 関係課 | 長寿障がい福祉課,地域包括支援C,子育て支援課,健康推進課,保健福祉課 |

1. 施策の目的と指標

| 目的 | ①対象(誰、何を対象としているのか) | | 対象指標 | 単位 | 区分 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|-----------------------|-------------------------|---------------------------------------|--|----|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 市民 | A | 人口 | 人口 | 人 | 実績 | 42,428 | 41,917 | 41,159 | | |
| 見込 | | | | | | | | 41,159 | 41,032 | 40,650 | 40,323 |
| B | | | | | 実績 | | | | | | |
| | | | | | 見込 | | | | | | |
| C | | | | | | | | | | | |
| 目的 | ②意図(どのような状態にするのか) | | 成果指標 | 単位 | 区分 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
| | 地域で支えあう意識を高め、福祉活動を実践する。 | A | 地域の中で福祉ボランティア活動(見守り、声かけなど)をした市民の割合 | % | 実績 | 21.3 | 23.0 | 23.4 | | | |
| 目標 | | | | | | (22) | 22.0 | 23.0 | 24.0 | 25.0 | |
| B | | 地域で自主的に企画・実践した福祉活動の参加延べ人数(地域福祉専門部の活動) | 人 | 実績 | 16,540 | 26,468 | 26,421 | | | | |
| | | | | 目標 | | (18500) | 19,000 | 19,500 | 20,000 | 20,000 | |
| C | | | | | | | | | | | |
| D | | | | | | | | | | | |
| 成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由) | | | A)地域で支え合いの意識を高め、福祉活動を実践すると、福祉ボランティア活動をした市民の割合は増加に繋がると考えた。B)地域独自の福祉活動が推進されているかどうかは、地域での自主企画・実践福祉活動の量で把握できると考えた。 | | | | | | | | |
| 成果指標の測定企画(実績値の把握方法) | | | A)市民アンケート調査で把握「あなたは過去1年以内に地域の中で福祉ボランティア活動をしたことがありますか?」(※具体的な活動例を示す) B)地域福祉専門部の活動報告書(助成金対象事業の延べ参加者;健康福祉総務課)で把握 | | | | | | | | |
| 目標設定とその根拠(基本計画策定時) | | | A)地域の中でボランティア活動をした市民の割合 成行値は、地域自主組織福祉部の発足により多少は上昇していくと予測する。目標値は、福祉部の活動を支援することで活動基盤を定着・充実させ、成行き以上の成果とする。 B)地域で自主的に企画・実践する福祉活動 同上 | | | | | | | | |

2. 基本事業の目的と指標

| 基本事業名 | 対象 | 意図 | 成果指標 | 単位 | 区分 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|----------------|-----------|---------------------|---------------------------------------|----|----|--------|--------|--------|------|------|------|
| ① 地域で支えあう意識の高揚 | 市民 | 地域で支えあう意識を高める。 | 地域福祉活動に関心のある市民の割合 | % | 実績 | 65.1 | 69.2 | 68.3 | | | |
| ② 福祉活動の実践と連携 | 市民、地域自主組織 | 地域の実態に即した福祉活動に取り組む。 | 地域で自主的に企画・実践した福祉活動の参加延べ人数(地域福祉専門部の活動) | 人 | 実績 | 16,540 | 26,468 | 26,421 | | | |
| ③ | | | | | 実績 | | | | | | |
| ④ | | | | | 実績 | | | | | | |
| ⑤ | | | | | 実績 | | | | | | |

3. 施策の役割分担と状況変化

| | 住民(事業所、地域、団体)の役割 | 行政(市、県、国)の役割 |
|--------|--|--|
| ① 役割分担 | ●地域での助け合い、見守り等を通して日常生活の中で近隣との良好な関係を築く。 ●地域自主組織福祉部を基盤に自ら福祉活動に積極的に参加する。 | ●地域自主組織、社会福祉協議会など、関係機関との連携を図る。 ●地域福祉活動を担う人材を育成する。 ●小地域福祉ネットワークや見守り活動など、地域福祉活動の組織化と、それらの活動に参加・参画しやすい体制づくりを支援する。 |
| ② 状況変化 | A)施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○高齢化が進み、平均寿命、平均自立期間が延びる中、地域での福祉活動は益々重要になる。○高齢者世帯が増加していく。○災害等の緊急事態の対応に不安をもつ人が多くなっている。○H22年度から、地域自主組織福祉部が発足し、福祉推進員も配置された。 | B)この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○住民意識には、地域での福祉活動が重要だと認識はある。しかし、人口減少・高齢化等により自治会、地区での活動の継続、充実が困難な状況にある。 |

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

| | |
|--|--|
| 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準) | |
| <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 | 背景・要因 ○H22年度から地域自主組織に福祉専門部が全地域にでき、福祉活動に参加する人は増えているが、他市と比較できる客観的データがないため、比較できない。 |

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

| | |
|---|--|
| 時系列での比較(成果水準の推移) | |
| <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した | 背景・要因 ○全ての成果指標において、概ね横ばいの実績となった。これは、地域自主組織の福祉部門が担っている活動により、一定の成果が出ていることと考えられる一方、参加する市民が固定化され、その拡大が図れていないのではないかと考えられる。 |

5. 施策の振り返り評価

| | |
|--|--|
| 施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度) | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった | 背景・要因 ○地域自主組織に福祉部門ができたことにより、地域福祉推進委員を置くなど体制も強化され、H22年度以降は目標を上回る一定の成果につながっている。 |

| 基本事業 | 取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業) |
|----------------|--|
| ① 地域で支えあう意識の高揚 | ・地域自主組織及び地区福祉委員会の活動により市民の地域福祉に対する意識の高揚につながっている。 |
| ② 福祉活動の実践と連携 | ・地域自主組織に地域福祉推進委員を配置し、地域課題に沿った地域福祉活動の充実が図られた。しかし、課題としては、地域が担う福祉の役割を整理していく必要がある。 |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

| 区分 | 今後の課題 | 次年度の方針(案) |
|------|--------------------------|---|
| 施策 | ○地域が担う福祉の役割を整理していく必要がある。 | ○H24年度において地域が担う福祉の役割を整理して、効率・効果的な地域福祉活動が行えるよう支援していく。 |
| 基本事業 | ① 地域で支えあう意識の高揚 | ○地域住民同士のつながりを深める学習会等の開催を支援していく。 ○社会福祉協議会や民生委員、地域自主組織等との連携を強化していく。 |
| | ② 福祉活動の実践と連携 | ○H24年度において地域が担う福祉の役割を整理して、効率・効果的な地域福祉活動が行えるよう支援していく。 ○地域福祉を担う人材に対する学習会等の開催を支援していく。 |
| | ③ | |
| | ④ | |
| | ⑤ | |